

# 今月の農家さん

## お互いに学び合う 大切さ

野洲市比留田  
青木 徹さん (68才)



高校を卒業して50年、農業一筋で今日も頑張っている青木さん。「人間にも作物にもやさしい農業」を目標に11haの圃場で、水稻やキクを育てています。

「肥料を多く運ぶのは大変なので、一般的な肥料をベースに独自配合したものを使って、栄養が効率よく作物に届くようにしています。この方法にしてからは、作物が強くなり、害虫も付きにくくなりました」と青木さんは笑顔を見せます。

そんな青木さんの楽しみの一つは、若手の農家さんとの交流。若手の方は、青木さんの長年培った経験を参考にし、青木さんは若手の方から最新の情報を学ぶなど、お互い良い刺激になるそうです。

最後に青木さんは「農業を始めるには頭や力を使う事がたくさんあります。アイデアにあふれ、体力のある若い方にこそ、挑戦して欲しいです」とメッセージを送りました。

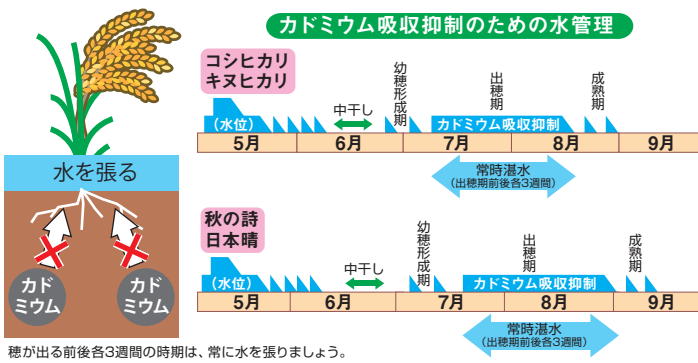
# 営農情報

## ◆カドミウム吸収抑制対策について

水稻は根からカドミウムを吸収しますが、このカドミウムは人体に有害な重金属です。

そのため日本では食品衛生法で、0.4 ppmを超えるカドミウムが含まれる米は、食用での販売などが禁止されており、生産者負担で回収・廃棄しなければなりません。

カドミウムは、常に水を張る『湛水管理』をする事で、植物に吸収されにくい状態になるため、



穂が出る前後各3週間の時期は、常に水を張りましょう。

## 穂肥施用時期の目安

品 種	施用時期の 目安	幼穂長の 目安
コシヒカリ 滋賀羽二重糯	出穂18日前	1cm 程度
秋の詩	出穂20日前	5mm 程度
みずかがみ キヌヒカリ 日本晴	出穂25日前	1mm 程度

また、葉色と株張りを見て施用量を調節する事も大切です。詳しくは夏期農談会で、現地を確認してご説明いたします。ご参加をお待ちしております。

穂肥は、収量の増大や登熟の向上など、稲の生育に重要な役割を果たします。

施用時期は、幼穂の長さからおおよその出穂日を予想して判断します。左記の表を参考にしてください。

## ◆水稻の穂肥について

土壌からの栄養吸収が最も盛んな出穂前後の各3週間は、必ず3cmほど水を張りましょう。

湛水時期は、早生品種は7月10日〜8月20日頃、中生品種は7月20日〜9月1日頃が目安です。